

地域活動を応援する

地域のわ通信

R 8年2月
NO. 94過去の「地域のわ通信」は
こちらをご覧ください。みんなで食べると、もっとおいしい！
こども食堂「しき♪ラララ」

こども食堂・しき♪ラララ（以下「しきう」）は、子どもを中心に、ご近所さんが肩の力を抜いて集まり、ごはんを囲んでつながる地域の居場所です。会場は斎藤分町北部自治会館。毎月第2水曜日の16時から開いています。

子どもも大人も一緒に「いただきます！」。昭和の大家族のような、少しごちゃっとしているけれど、どこか懐かしくあたたかい——そんな雰囲気にもまれた場所です。

今回は、「しきう」を主催する運営委員会代表・山田園生さんとスタッフのみなさんに、活動の背景や魅力を伺いました。



おいしいです



いただきます！

写真：子どもたちの笑顔があふれる「しきう」

「しきう」は2021年3月に休止し、2024年11月から再開されたと伺いました。再開後の特色を教えてください。

子どもが真ん中にある場所をつくりたかった！

コロナ禍でやむなく休止しましたが、運営メンバーから「地域に必要な活動だ」という声上がり、再開を決めました。名称や会場を変え、新しい運営メンバーも加わって“生まれ変わった”形です。

活動名も「地域食堂」から「こども食堂」に改めました。より子どもに寄り添えるように、という思いからです。会場を斎藤分町北部自治会館にしたことで、子どもが遊べるスペースも確保できました。参加者は地域の大人と子ども合わせて毎回20名ほど。食事は子どもの「いただきます！」の挨拶で始まります。

「しきう」の魅力を教えてください！

大人も子どもも笑って、肩の力を抜いて過ごす時間。
会話がある。ごはんがある。遊びがある。



子どもも大人も近くに座った人とワイワイ談笑しながら食事。以前はイベントを実施していましたが、会話時間が短くなりがちでした。今は、ゆっくり会話と交流を楽しめる「しきう」になっています。



食事は、仕出し屋「六角橋にんじん」さんを活用。味噌汁は手作り。すべて手作りが理想ですが、運営する側が負担になると続かない。大事なことは、地域に集える場があることだと思っています。



受付後、保護者は自宅へ、子どもは「しきう」で遊び、それぞれが楽しんでいます。子育て世代に町内会会館を知ってもらう機会にもなっています。



ご近所の人たちと会話しながら食事。「ここでのおしゃべりを楽しみに参加しています」



子どもたちの間では「今日、こども食堂に行く？」と学校で話題になるそうです。子どもたちが気兼ねせず自由に遊べるのも、ここの魅力です。

しきうラララ運営委員会の代表の山田さん（写真後ろ左から3人目）と仲間たち



地域活動は「押し付けられると離れる」「楽しくないと続かない」
「しきう」の運営者は、自分たちも楽しむことを大事にしています

こども食堂の役割〈ちょこっとコラム〉

—地域にもたらす“新しいつながり”と“安心”—

「子どもだけの場所？」「困っている家庭のため？」

実は、こども食堂はそれだけではありません。

多世代が集まり「いただきます」を共にすることで、

・孤食の防止

・子ども・高齢者の安心できる居場所づくり

・子育て世代の夕方の負担軽減

・防災力の向上（顔の見える関係）

といった効果が広がっています。

食を通じて地域をゆるやかにつなぎ、支え合う拠点になっていくのが「こども食堂」です。

こども食堂『しきうラララ』概要

会 場	斎藤分町北部自治会館
活動日	毎月第2水曜日 16:00~18:30
対 象	子どもも大人も誰でも
参加費	子ども 100円／大人 400円
申 込	Googleフォーム →
運 営 連絡先	しきうラララ運営委員会 090-3212-3271

Chikiyoku
Up!

